

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは、あなたが日々笑顔で暮らせるように、寄り添いながらあなたを支えます」という基本理念は、各ユニットの玄関ホール、事務所内に掲示され、理念に基づいたケアが実践できるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員会議は地域の会館を利用し、地域の防災訓練や夏祭りにも参加している。買い物は近隣のスーパー等で、美容院も近くを利用している。保育園の誕生会にも参加し交流を持っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「大桑の家通信」にて、認知症の方や高齢者の方に関する注意点等季節を捉えコラムにし、地域へ発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催の運営推進会議では、利用者のご家族、市または地域包括、町会長、近隣の歯科医院、介護事業所に参加頂いている。報告の場だけではなく、情報や意見交換の場とし、サービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には出席頂きアドバイスを頂いている。必要時は連絡を密に取り、助言や指導を受けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止は理念にも掲げている。「身体拘束排除の為の取り組みの理念及び指針」マニュアルあり。定期的に社内研修をし、理解を深め拘束のないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については定期的に社内研修にて学んでいる。職員は理解した上で互いに注意しながら見過ごしや防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方は1名いる。後見人とは連絡を取り合い協力し合っている。社内研修の中で触れる事はあるが、学ぶ所には至っていない。今後の課題である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は丁寧な説明を心がけ、御家族等が不安や疑問に思う事を確認しながら、理解、納得されるまでゆっくりと行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人の要望は即反映出来るように、職員間で共有し意思統一を図っている。御家族面会時や電話にて必ず話す機会を持つたり運営推進会議にて意見をもらったりと、何でも気軽に言ってくれる関係作りに努めている。ユニット入口には苦情受付の案内を掲示し玄関には意見箱を設置している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、職員会議を月に各1回行ない、意見交換や交流の場としている。日々の業務の中でも随時話し合える関係作りに努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則があり厳守されている。状況に応じて改定されている。職員の保有資格や職位職責等に応じての給与となっている。職員会議やフロア会議への参加も考慮されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の職員会議での内部研修を実施している。資質向上の為に外部研修受講には勤務調整、費用(助成)負担を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会への参加や他施設からの見学や研修の受け入れを行なっている。近隣の同業者とは防火対策の協力関係を築いており、お互いの運営推進会議にも参加し交流を図っている。ケアワーカーカフェの案内の掲示も行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の時間を持つ中で、本人の置かれている状況を把握し理解に努め、困っている事、不安な事、要望等を聞き、安心して頂けるようなサービスの提供にて信頼関係を築けるよう努めている。その後も本人の思いをくみ取れるよう会話や行動に留意している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的に話し合える場をもち、御家族等が困っている事、不安な事、要望等を聞いて御家族の真意を理解し、サービスの提供へと繋げている。常に気軽に話せる関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族等から得た情報を活かし、本人支援の優先順位を見極め実行している。早期対応を心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な日常の中で本人の出来る事は手伝ってもらい、一緒に過ごす時間を大切にしている。本人のしたい気持ちを大切に、体調や状況を見極めながら行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月請求書に一筆を添えたり面会時や電話の折には必ず本人の近況を報告している。その中で相談したり、意見を頂いたりと共に本人を支えていけるよう協力して頂いている。受診には御家族に同行協力頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの人間関係や生活歴の把握に努め、日々の会話の中に入れ少しでも感じる事ができるよう支援している。またドライブ時には土地勘のある所を通る様にしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見守りながら把握理解し、レクリエーションやアクティビティを提供しながら、お互いのストレスにならず楽しめる雰囲気や空間作りに考慮し、支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要によっては契約が終了しても連絡をとり、相談や支援が築けるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切にし、本人の気持ちが引き出せるよう心がけ言葉、表情、行動等から、思いや要望をくみ取っている。困難な場合は表情や行動、家族等の情報も参考にしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族等との会話にて生活歴や生活環境、サービス利用の経緯等の把握に努め、把握した情報は記録し職員全員で共有し活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や会話の中から個々の状態を把握し、したい事ややりたい事を大切にして現状維持に努めている。変化時は記録に残し職員間で共有し活用している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月または変化があった場合にプランの見直しを行ない本人、家族、必要な関係者と相談しながらその時の状態に応じたケアプランの作成に努めている。月1回のフロア会議でモニタリング、評価をし意見を出しあっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や毎日の申し送り、都度声掛けにて職員間で共有しながら状態を把握し、工夫、実践、結果を繰り返し介護計画の見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合の悪い時やいない人の買い物は代行している。希望があれば散歩や買い物、美容院等の用事にも一緒に出掛けている。体調や状態の変化に応じて家族や主治医と相談しながら、支援やサービスに繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所時、入所後も情報の把握に努め、近隣のスーパー、薬局、美容院、本屋を利用し、楽しみある豊かな生活になる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った受診・往診が来ている。必要に応じた情報提供や報告・相談に関して関係を築き、適切な医療に繋がる様支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態や変化を個人記録、受診・往診等医療に関わる事が記録されている医療ノートを参照しながら情報を共有し相談しながら、適切な受診や看護を受けられる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の相互の情報提供の他、訪問や電話連絡、家族との連絡を密にして状況の把握に努め、病院関係者との関係づくりを行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時「重度化した場合の指針」にて対応出来る事を十分説明し、早期の段階から話し合う機会を持っている。看取りについては、改めて本人、家族、かかりつけ医と確認・相談しながら取り組んでいるが、まだ事例はない		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署や社内研修での救命救急とAED操作を受講している。職員会議でも急変時や事故の対処について学んでいる		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	119通報マニュアルや日中、夜間の緊急連絡網がある。かかりつけ医との連絡体制もとれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関との連携マニュアルがあり、バックアップ機関である介護老人施設とも支援体制が確保されている		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニット1名ずつ夜勤者を配置し、連携がとれるようになっている。また、緊急時マニュアルが整備されており、連絡体制も整っている		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定しての避難訓練を年2回実施している。災害時連絡網があり、近隣同業者との協力体制もとれている。近くに防災拠点広場があり利用できる。地域の避難訓練にも参加し、住民との交流、面識を持つ事に繋がっている		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害発生時の連絡体制、火災、地震発生時の対策方法が整備されている。災害用の備蓄は確保し、定期的に点検している。スプリンクラーや消火器の点検は年2回ある		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを年長者として敬う対応を心がけている。声掛けや対応が不適切な場合は都度職員間で注意あっている。一人ひとりの尊重とプライバシーが確保されるよう定期的に社内研修を行なっている		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定が出来るような言葉、声掛けに努めている。困難な場合には表情や行動から想いをくみ取ったり選択肢の提供にて自己決定に繋がるよう努めている		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、出来る限り希望に添えるよう努力している。希望が無い時は職員が提案し本人に選択してもらえるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家人とも協力し季節に合った衣類を準備し、入浴や外出時は本人に選んでもらっている。希望時は近隣の美容院や訪問カットにて散髪を支援している		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はホームで作り音や臭いから、また口腔体操や姿勢を直し安全な中で食事を楽しむようにしている。本人がどうしても食べれない物は外し、別メニューにする事もある。下準備、調理、片づけは個々の出来る範囲で一緒に行なっている		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養管理師の立案を各フロアにてアレンジしている。一人ひとりの状態に合わせた食事量や形態にて提供している。水分が苦手な人にはゼリーを活用している		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを工夫し見守りにて行なっている。義歯は夜間預りポリドント洗浄している		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けにて誘導し必要な対応を行なっている。トイレ時間、排泄内容は職員常に意識・確認しあい、工夫しながら支援している		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルト提供や、食事や水分摂取の工夫をしている。日常生活の中には運動や体操を取り入れ予防している。必要時はお腹のマッサージ、薬によるコントロールを行なっている		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調や気分配慮し、可能な限り希望に添った方法で入浴を支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の状態に合わせて休息を声掛け誘導している。適度な軽体操や運動を行ない安眠に繋がる支援をしている。夜間は室温や入眠状態を把握し対応している		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報を保管し効果、副作用等の理解に努めている。症状変化時はホーム看護師やかかりつけ医に報告、相談し記録や申し送りにて共有している		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力や状態に合った食事準備や片づけ、洗濯物量み、掃除、新聞折り等を行なっている。趣味や特技の時間をもったり、外食やドライブ、散歩等にて気分転換出来るよう支援している		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度は季節に応じた場所へのドライブや外食を行事として行なっている。天気や希望にて散歩やドライブ、買い物も行なっている。時には家族に協力を得ている事もある		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が買い物を代行したり、時に同行したりして支援している		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもやり取りが出来るよう支援している。ホームでも毎月写真入りの一筆を家人に届けている		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は不快にならないよう清潔保持、整理整頓に努めている。季節を感じながら生活して頂きたいので玄関やホールの飾りを工夫している。年間を通じ空調管理に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での椅子やソファは自由に使用出来る。エレベーターホールや玄関にも椅子を配置し、自由に使用し思い思いに過ごせるよう工夫しながら支援している		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家人と相談しながらTVや使い慣れたものを持ち込んでもらい、本人に心地良く好きなように過ごしてもらおう工夫をしながら、安全確保にも繋げている		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や下駄箱にはネーム、トイレやふる場の見やすい所に手作りの表示をし、分かりやすいよう工夫している。個々の動線に合った配置を行ない、安全に生活出来るよう工夫している		